

IPEX2014 視察報告会

International Printing Machinery and Allied Trades Exhibition

2014年4月21日PM300—5:00 日本印刷会館



(一社)日本印刷産業連合会
企画推進部 国際担当
石橋邦夫

IPEX2014の概要

- ・3月24日(月)から29日(土)までの6日間ロンドンのExCellにて開催
世界4大印刷機材展の一つ(drupa、Print、IPEX、IGAS)
オーガナイザはInforma Exhibitionで、IPEXは1880年より開催されている。

テーマ: Discover the Power of Print
 来場者 23,000人(前回 50,000人)
 出展者数 400社(同 1,000社)
 展示スペース 15,000m²(同 50,000m²)
 来場者の46%は海外からの来場者(前回とほぼ同じ)



- ・期間中にWorld Print Summitとして講演やパネルディスカッションを20セッション開催したほか、Master Classと呼ばれる少人数でのセッションが52コース開催された。
- ・特別展示エリアとしてEcoZone、Future Innovations、Wide Format Zone、Inspiration Avenue、Make Ready Challenge(印刷刷りだしまでの時間競争)などが設置された。また高校生・大学生を中心としたIPEX Youth Dayを29日(土)に設定し、若い世代に対する印刷産業紹介の場を設けている。



IPEX2014の概要(2)

- ・同時開催で25日から27日の3日間Cross Media Productionを開催。
15社が出展のほか、3日間にわたりデジタルおよびダイレクトマーケティング、ブランドマネージメント、出版をテーマに50近いセミナーセッションが開催された。
Cross Mediaという展示会は2012年より毎年10月にロンドンで開催されている。
オーガナイザはIPEXと同じInforma Exhibitionで、2013年には10月8, 9日に開催され70社が出展。2014年には10月21, 22日に開催予定。
- ・Informa ExhibitionはInforma Groupの一部門で、グループ全体では6,000人の従業員がおり、25か国、100都市に事務所を持つ。事業領域は各種展示会のほかに、学術出版、ビジネスインテリジェンスなどがあり、ビジネスインテリジェンスには市場調査会社のDatamonitor社も含まれる。本部はスイス。
2013年度売り上げは11.3億ポンド(約1921億円) <http://www.informa.com/>
- ・IPEX閉会后にIPEXの責任者Trevor Crawford氏が辞任。またIPEXの営業およびマーケティング担当者の人員削減、Cross Media 2014の中止発表などがされた。Cross MediaはIPEX2018に統合される。

IPEX2014の特徴

1. 大手の出展取りやめ続出

- ・HP、ハイデルベルグ、リョービMHI、キャノン、コダック、リコー、AGFA、などの大手が出展を取りやめた。理由としてはROI(投資効果)が見込みにくい、新興国市場の展示会に注力、独自の内覧会やユーザグループ(HP Dscoop、EFI Connectなど)の活用など。
- ・ハイデルベルグはロンドンのデモセンターにて27、28日に内覧会(20/20 Vision Open House)を開催。Two Sides, HHS, IST, Morgana, Sappi, technotrans, Gallus, Tharstern, Santander, Print Finance, X-Rite, Winter & Company等がこれに参加し、来場者は450名、受注900万ポンド(約15億円)をあげる。
- ・この他、よりターゲットを絞り込んだ展示会に出展者を奪われているとの見方もある(FESPA、Label Expo、InterPack、InPrintなど)

2. コニカミノルタが最大規模の出展者

富士フイルム、MGI、小森、Intelligent Finishing Systems (ホリゾンなどの後加工機の代理店)、Hans Gronhi(中国の印刷機メーカー、シノハラの親会社)大日本スクリーン、Morgana Systems (製本機械メーカー)なども大きなブースを出展していた。

IPEX2014の特徴(2)

3. 豊富なセミナー

- ・ World Print Summitとして期間中に20セッション、Master Classが2か所で52コース開催、さらにCross Media Productionでデジタルおよびダイレクトマーケティング、ブランドマネージメント、出版の3つの分野をテーマに50近いセミナーセッションが開催された。1セッションが45分で全て無料。
- ・ 大手の出展取りやめの影響を受けての対応とみられてはいるが、講演者はそれなりに著名な人材を集めており、評価は高い。Print、JGAS、Pageなどでもセミナーなどが充実してきており、今後は展示以上にセミナーの重要性が増えていくように思われる。

4. 数多くのW2P、MISのシステムベンダが出展

欧州でもW2PやMISは広く導入が進んでおり、富士フイルム、コニカミノルタなどの大手ベンダーが提供するものから、規模の小さい専門ソフトハウスの製品まで数多くの出展があった。

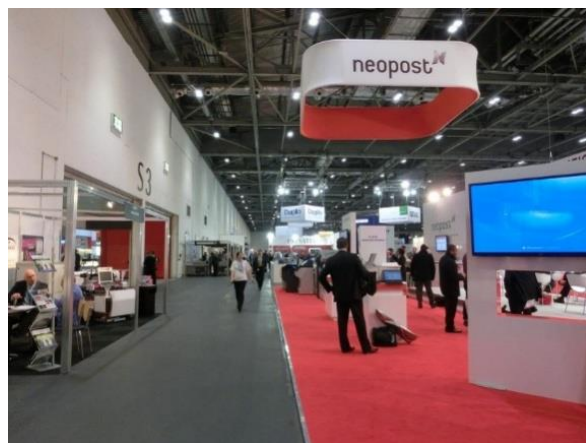
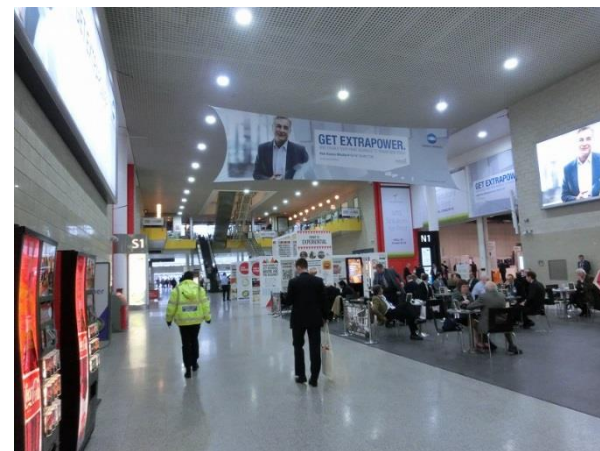
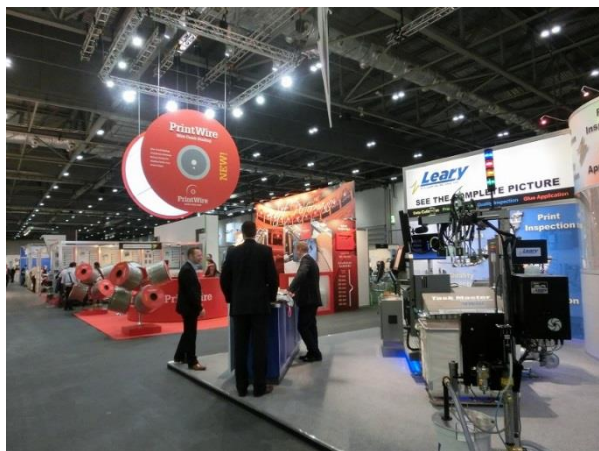
5. 後加工機は数多く出展されていたが、大型のインライン加工機は見受けられなかった。むしろ小型の製本やメーリングシステムが数多く出展されており、英国の市場はむしろこのようなシステムの方が適している様子。

IPEX2014の特徴(3)

6. 展示会場はかなり空きスペースが多くみられ、来場者数もあまり多くはないためにゆったり見ることはできる。 今後は大掛かりな展示や規模を追いかけるのではなく顧客との接点の場としての展示会、さらにはセミナーなどによりビジネスの状況を知るための場になるように思われる。
7. 中古印刷機販売会社の出展が多い
IPEXは海外からの来客も多いことから、アジア・中東・アフリカ・東欧などを含めた海外市場をターゲットに出展している中古印刷機販売会社が数多く出展している。
8. オフセット・デジタル分野の大手の出展が少なかったため、中小の出展者にとっては来場客がこれらのブースを訪れる時間が増えたように思われる。
規模、来場者数は前回と大きく見劣りするものの、出展した企業にとっては満足のいく展示会であったように思われる。



分野ごと及び個別注目製品



オフセット印刷機

- ・ 小森コーポレーションがエコゾーンでリスロンG540 のデモ
- ・ Hans Gronhi(中国)/Printers Superstore(英国販売代理店)
シノハラ 75VH 5色機 + コーター および Hans Gronhi GH525 5色機、
GH522NP 2色機

小森



シノハラ



Hans Gronhi



オフセット印刷機(2)

- ・パネル展示： GOSS、TPH/Orient(インド)、Ronald Web Offset(インド)、Grafitek (J. Mahabeer) インド
インドの印刷機(輪転)メーカーが3社出展していた。
インドでは輪転の需要がまだ根強く、これは新聞や雑誌の読者がまだ増えている。
IPEXでの出展は、英国市場よりはIPEXにやってくるグローバルな顧客をターゲットにした出展。
- ・ 展示なし： ハイデルベルグ、KBA、マンローランド、リョービMHIなど

GOSS



Orient



Ronald



デジタル印刷機(大型)

- コニカミノルタKM-1
- 富士フイルム
Jet Press720 & Jet Press 540W
- 大日本スクリーン
Trupress Jet520
- Xerox iGen150
(代理店Xeretecによる出展)
- MGI Meteor DP8700 XL



プロダクションプリンタ

- コニカミノルタ bizhubシリーズ
- 沖電気 ES9541 5C LED A3プリンタ
- リソー ComColor X1 inkjet printer



bizhub



ES9541

ComColor X1



ラベルプリンタ(大型)

- コニカミノルタ bizhub PRESS C70RLC label press
- 富士フイルム FFEI Graphium (4C+ホホワイト、フレキソ、8階調
360 x 360dpiにて25m/min)
- 大日本スクリーン Trupress Jet L350UV
- Xeikon 3500 (最大516mm幅、19.2m/min)
- Domino N610i (6C+ホホワイト、600dpiで75m/min、70万ユーロ)

bizhub Press C70RLC



Trupress Jet L350UV



Domino N610i



FFEI Graphium



Xeikon 3500



ラベルプリンタ(小型)

- Impression Technology RapidX1 : 英国
Memjetプリンター、18m/min のスピード
価格は、プリンターが13,000ユーロ(約182万円)
コーターが20,000ユーロ(約340万円)
- Afinia L801: 米国
Memjetプリンター、1600dpi 18m/min、価格 \$8995(90万円)
2009年に設立された会社で3d Printer及びLabel Printer
の製造販売を行っている。親会社は日本の Microboards
Technologyで、CD・DVD・BlueRayのデュプリケーターを
製造販売している。
- Primera Technology CX1200e Digital Label Press: 独
電子写真方式 1200x1200dpi or 2400x600dpi
5m/min 本体価格\$18,995(190万円)



RapidX1(上) コーター(下)



Afinia L801



ノベルティー用のフラットベッドIJプリンター

Compress UV-600s:

オーストラリアのメーカー。価格は21,000ユーロ(294万円)で、UV IJにより立体物に印字が可能。印刷会社がノベルティー製造用に購入するケースもかなりある。

Copytrax

英国のCopytrax社からも同様の製品Print Master Cezanne UVがリリースされた。印字面積は一回り小さいが、価格は16,000ユーロ(224万円)と低価格を実現。スクリーン印刷の代替えを狙っている。



高品質印画紙プリンター

- Lumejet S200
RGB LED露光によって銀塩の印画紙に305x1000mmサイズまで印字が可能。
解像度400dpiで連続調の階調を持つ。(IJの4000dpi以上の品質)
印字速度 A4 時間200枚
主にフォトブックや、高品質のプレゼンテーション、書籍のジャケット、美術書用途。
価格 150,000ポンド(約2550万円)
印画紙は1mあたり0.90ポンド(約153円)
印画紙は富士フイルム製
2013年9月に発表 既に3台受注。
設立は2010年1月で、Warwick University
の技術をもとに開発している。



Wide Format Zone

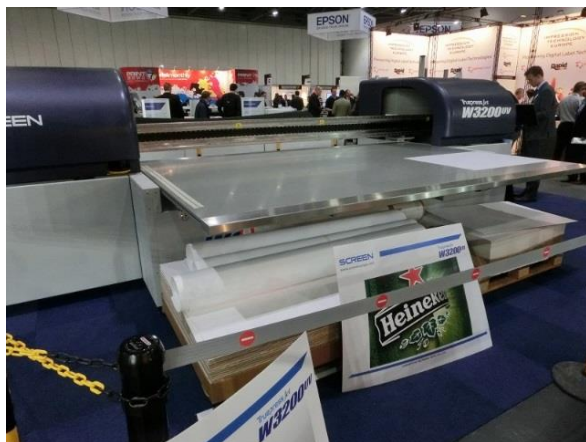
ワイドフォーマットプリンタを集めたWide Format Zoneに出展されていたのは以下の通り。

- ・エプソン
- ・大日本スクリーン
- ・ローランド (Graftityp社による出展)
- ・キヤノン (M Partners社による出展)

エプソン



大日本スクリーン



ローランド



キヤノン



3rd Party製品のIJ用インク

オランダの大手インキメーカーVanson社が、ワイドフォーマットプリンタ用の3rd Partyインキを販売している。エプソン、キャノン、ミマキ、ローランドなどの主要メーカーのものを用意しており、同社の製品を使って顧客のプリンタで問題が生じたときは、Vanson自体が対応する。(ベンダーは3rd Partyのインキでの問題には対応しないため)



W2P

W2Pは数多く出展されているが、その中で特徴的であったのがW3P社の製品。これはW2Pに各種のデザインテンプレートが用意されており、さらにFotolia社の画像ストックが利用できるようになっている。これらのサービスがクラウドベースで提供され、企業が独自に活用するほか印刷会社がクライアントにW2Pサービスを提供できるようになっている。



製本・後加工関係

大手の出展者としてはIntelligent Finishing Systems社、Morgana Systems、Duplo、Integra International、Neopost、Watkiss Automationなどが挙げられる。オフセット印刷機やデジタルプレスの大手が出展を見合わせたのと比べると、後加工分野の出展は充実していた。

- ・Intelligent Finishing Systems:
英国とアイルランドのホリゾンの代理店。 そのほか Perfecta, Dürselen, Foliant, Petratto, SCS Automaberg, Italdibipack , LasermaxRoll の代理店。



製本・後加工関係(2)

- Morgana Systems

英国の製本、折り、断裁機器メーカー。IPEXではDigiBook 200をリリース。PUR無線綴りで時間200冊可能。価格2.7万ポンド(約459万円) スウェーデンのBindmatic社、日本のBNテクノロジー社、内田洋行、ドイツのEBA社、Earnest Nagel社、米国Performance Design社の代理店にもなっている。



- Integra International

イタリアSITMA社のフィルムラッピング装置、封入封函機及びMariani社のパレタイザー、米国Profold社のカードパーソナライゼーション装置、ベルギーCP Bourg社の製本機などの代理店。



製本・後加工関係(3)

- Watkiss Automation
英国のコレータ、製本機のメーカー。
PowerSquare224は10.4mm厚までホチキス留、
折り、背固、断裁が可能で、オフライン、ニア
ライン、オンラインでの利用が可能。
オセ、キャノン、ゼロックス、コダック、コニカ
ミノルタのプリンタと連動可能。
- Neopost
欧州でNo.1、グローバルでNo.2のマーキングシステム
ベンダ。2013年売上10.95億ユーロ(約1533億円)、
29か国に従業員6000名の規模。



製本・後加工関係(4)

- Encore
Mathias Bauerleや正栄の折機、Pit Stopの筋押機、Intecや京セラのプリンタなどの代理店。
- Ams
英国のメーリングシステムベンダー
- Hohner
ドイツのサドルステッチ製本器機メーカー。
- IDEAL
ドイツのシュレダ、断裁機のメーカー。
英国ではDuplo UKが販売。



製本・後加工関係(5)

- Digital Enhancementの分野ではScodixとMGIが大きなブースを出展。
Scodixは3月に英国のPrecision Printingでの導入が決まり、これが100台目の受注となったほか、IPEX期間中にEpic Printing Servicesでの導入も決まった。
- MGIのJETvarnish 3D digital spot UV coaterは3-9ミクロン厚であればB2サイズで時間3000枚処理可能。
100ミクロンの厚盛では時間800枚だが、プリントヘッドを2本、3本と増やすことによって、時間1600枚、2400枚と速度を増やすことが可能。
またiFoilを使うことにより箔押しがバリアブルに行うことも可能。



JETvarnish 3D digital spot UV coater



小規模メーリングシステム

・IPEXで目立ったのは、大量高速なプリンターと後加工機を組み合わせたシステムではなく、むしろ小型のプリンターと小型の後加工機の組み合わせで、リソーもX1と呼ばれる小型のプリンターとフンケラーの小型の後加工機を組み合わせたものを展示していた。これでも時間8000通くらいは処理できるということで、価格も安いことから地方政府や企業などの導入も多い。また印刷会社も大型のシステムを導入しても入札で負けたときの影響が大きいことから、小型にシステムで必要に応じて台数を増やすケースが多い。

・NeoPost社なども小型のメーリングシステムを展示するほか、UK Mailで郵便料金の割引を受けられるためのシステムなどを展示していた。UK Mailは郵便事業の規制緩和により2006年に設立された民間郵便事業者で独自の割引制度を持っている。



中古機械販売会社

- ・中古機械の販売会社の出展が20社程度あり、そのブースも中古販売会社のものとは思えないほど立派で洗練されたものが多かった。大手は自社で機械の再調整を行える体制を整えており、サポートもしっかりと行っている。
- ・顧客はアジアが一番多く、そのほかでは東欧など、やはり新台を購入できない地域が多いが、英国や欧州で購入する企業もある。中国の景気低迷、融資確保が難しくなってきたことなどにより、最近ではアジア市場も動きが鈍くなってきている。



中国の印刷機材メーカ

中国の印刷機材メーカも大手を中心に出席している。

- Lucky Huaguang Graphics : PS版の製造キャパは6500万m²/年、PS版、CTP、フィルム、フレキソ版などを製造。 ウェブサイトは英、露、墨、アラビア語が用意されている
- Hangzhou CRON Machinery & Electronics : CTP
- Jinruitai Technology : CTP
- Konita : CTP
- Chongqing Huafeng Printing Material : CTP (アルミ製造会社の子会社)
- Shanghai Ketchview Printing Machinery : スクリーン印刷
- Shanghai Yoco Printing Machinery : ダイカッター、スタンピングマシンなどのメーカで日本の飯島製作所や日光エンジニアリングと技術提携をしている
- Wenzhou Hoson Printing Machinery : フォルダ・グリュア
- Wenzhou Taichang Adhesive Products : ラベル・フォイル



中国の印刷機材メーカー(2)

- Masterwork Machinery : 折り畳みカートン関係の後加工機メーカー
- Chang Zhou Machinery Blade : ブレード、ナイフメーカー
- Beijing Kangde Xin Composite Material : ラミネータ及びフィルム
- Guangdong EKO Film Manufacture : ラミネーションフィルム
- Hangzhou Luck Electromechanic : 断裁、製本
- Era Industrial Co : ラミネーションフィルム
- New Era Industrial : 製袋機
- Yantai Hongqing Packing Material : ラミネーションフィルム
- WENZHOU ZHENGRUN MACHINERY : 製函機
- Zhengzhou Audley Digital Control Equipments : バナー制作、ラミネーション関係



カナダの環境対応製品：ブランケット再生

Enviro Image Solutions:

カナダの企業で、オフセットのブランケットを5回まで再生できる。特別な薬品で再生を行っており、使用済みのブランケットを同社(カナダ)送ると、再生して送り返してくれる。メインの市場は米国で、そのほかにはカナダ、メキシコ、英国のほかには日本の顧客もいる模様。

28”x40”のブランケットの新品が160ドルに対し、再生費用は59ドルで、これを5回繰り返すと新品を使った場合は800ドル、再生の場合は295ドルとコストが大幅に削減できるほか、環境負荷を考えたときの効果も大きい。

IPEXでは販促でブランケット10枚を無料で再生するとのキャンペーンを行っていた。

PIA / GATF Intertech Awardを2007年に受賞。

参考

<http://www.enviroimagesolutions.com/index.html>

<http://www.ekouhou.net/disp-applicant-509005476.html>



Safe to Touch Print(抗菌印刷)

Chemical Intelligence社の開発した抗菌印刷のコート材Biosealを英国のDruckfarben社が展示。

これはBiosealをコート剤と混ぜることにより、印刷物に抗菌機能を持たせるもので(表面のバクテリアを99.999%減らす)、幼児向けの書籍や食品トレイ(肉などの)、お札、病院で使う印刷物(MRSA対策)など幅広い用途が考えられる。

これと類似の製品がUltrachem社からもSafe to Touch Printの商品名で出されていた。これらの抗菌コート材は、以前から存在していたがあまり広くは普及していなかった。

参考

www.bioseal.co.uk

3D Printer

3Dプリンターは英国でも注目を集めており、一部にはこれをうまく活用している印刷会社もある。Hobs社は子会社を通じて、3Dプリンタの販売のほか出力サービスも行っている。もともと建築関係の会社との取引が多かったこともあり、建築パースの3D出力などの仕事が多い。

英国の印刷会社での、ほかの成功事例を聞いてみたがあまりないのが実態。運営に関してはCADデータの取り扱いに詳しい人材の確保が重要としていた。



Printed Electronics

この分野ではPEL社とCeradrop社(MGIの子会社)がプリントドエレクトロニクスの部品作製装置を展示していた。どちらも印刷会社での導入の実績はなく、研究機関やその他のメーカーなどが実際の顧客となっている。

Printed Electronics Limited (PEL) はデジタルとインクジェット技術を活用してプリントドエレクトロニクス製品を開発している英国の企業。受託での開発なども請け負っており、ナノ素材の利用を研究しているNanoCentralのメンバーにもなっている。

Ceradrop社はプリントドエレクトロニクスの作成装置であるCeraPrinterの提供のほか、特殊なインクジェットインクの開発も行う。



超高級市場向け製品

ロンドンという場所柄、けた外れの金持ちを対象とした印刷物の需要があるようで、Talking Print社のディスプレイを組み込んだ製品は20-30ポンドという高額ではあるが、それなりの需要があるという。そのほかLumeJet社の製品も超高級不動産物件の紹介用などのフォトブック市場を見込んでいる。



封筒専門メーカー

封筒専門メーカーが2社出展しており、数多くの種類の封筒を展示していた。高品質やユニークな封筒を中心としており、海外にもかなり輸出している。

Envelopes Ltd



Blake Envelopes



段ボールを利用したPOP家具

Brand.it Furnitureは段ボールを使ったPOP家具を企画しており、契約した顧客(印刷会社など)にはそのCADデザインを提供している。ワイドフォーマットのプリンターでプリントし、それをカットして組み立てられるような形にし、展示会などで活用することが多い。フラットで運べるために輸送コストもあまりかからず、その後の廃棄も容易で環境負荷が少ないことから、ゼロエミッションやカーボンニュートラルをうたう展示会などには適していそう。



IPEXセミナー

- ・IPEXのセミナーとして大会場で行うWorld Print Summitと、シアター1、2で行うマスタークラスの3つが同時開催されるほか、Cross Media Productionでもブランドマネージメント、ダイレクトマーケティング、パブリッシングの3つの分野のセミナーを25-27日の3日間開催。
- ・IPEX期間中毎日開催。全てが無料。ただし時間は45-50分でパネルディスカッション形式も多く、一つのテーマをしっかりとまとめた形になっていないものが多い。聴衆の入りはテーマによってかなり大きく異なる。
- ・発表する人はそれなりの著名な人たちが行っている。
(St. Ives社、EFI社、Landa社のCEOなど)

World Print Summit



Master Class



Cross Media Production



Frank Romano, Landa, EFIの対談

- ・今回のセミナーで一番人を集めたセッション
RIT名誉教授Frank Romano、Landa CEO Benny Landa、EFI CEO Guy Gecht
- ・内容的には取り立てて新しい内容はないが、Benny Landaの話は人を引き付けるものがあり、印刷業界のSteve Jobsそのもの。
- ・ナノ技術は印刷分野以外にも医療分野など幅広い応用分野があり、その可能性も訴えていた。可能性が広すぎて、Landa氏の年齢を考えるととても全てを自分の手で実現することはできそうもない。
- ・Landaのベータ機は年内に米国と欧州でテスト導入の予定としながらも、EFIの開発の進み具合によるという煙幕も張っている。
- ・基本的な設計に変化はないとしながらも、スマホのような操作パネルは、位置の変更しコックピットのようにするとしていた。



Frank Romano, Landa, EFIの対談(2)

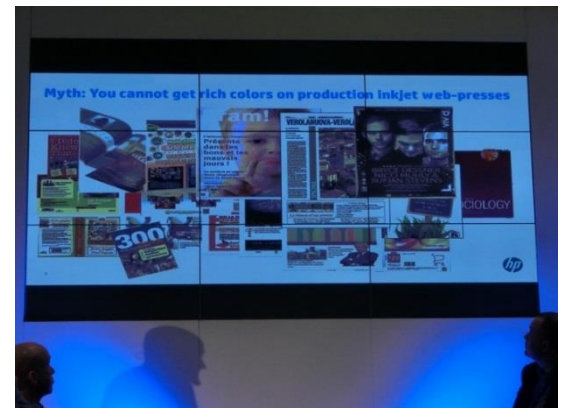
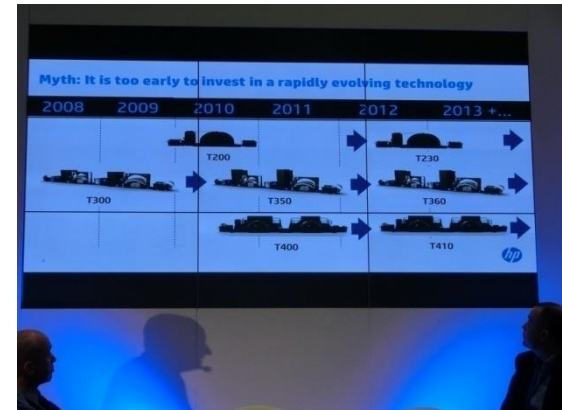
- ・小森のメカ、EFIのRIPや前処理技術を活用することで、かなり手堅い開発になると思われる。ナノ技術の成熟度がどこまで早く完成するかがキーポイントとなりそう。
- ・しっかりした技術を使うということで、機械コストはそれなりの値段になりそう。そうすると消耗品価格がかなり安くないとインクジェットなどとの競争に勝てない。
- ・製品はパッケージ分野を最優先。市場としては出版などはシュリンクしており、パッケージの成長と較べると魅力が落ちる。商印はまだ横ばい程度で、出版よりは良い。(小ロットのパッケージの需要がそこほどたくさんあるのか?)



Inkjetの新たな幕開け

インクジェットはいまだに誤解されている点がある。

1. 誤解1 インクジェット機は大量のヘビーデューティの仕事には向かない → HPは大量のヘビーデューティの仕事をつこなす事が可能な頑丈な機械を提供している。
2. 誤解2 まだ技術の進歩が速いので導入してもすぐに陳腐化する。
→ HPの各モデルはフィールドでのバージョンアップ可能
3. 誤解3 ウェブタイプのインクジェットでは高品質のカラー印刷が難しい。
→ 数多くの印刷物が既にインクジェットで作成されている

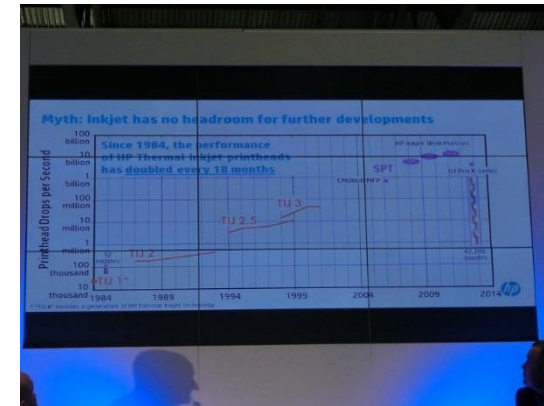
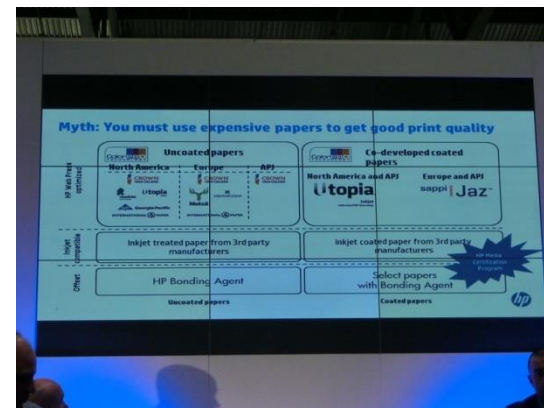


Inkjetの新たなる幕開け(2)

- ・誤解4 高価な専用紙を使わなくてはならない
 → 最適化された専用紙のほかに、3rd partyのインクジェット用紙があるほか、ボンディングエージェントを使えば通常のオフセット用紙の使用も可能。

- ・誤解5 インクジェットはトランザクション用途にしか向いていない → 既に雑誌、書籍、新聞、カスターマガジンなどで活用されている

- ・誤解6 インクジェットは将来的な成長の余地がない
 → 1984年以来HPのヘッド性能(1秒当たりの吐出数)は18か月ごとに倍増してきている



Inkjetの新たなる幕開け(3)

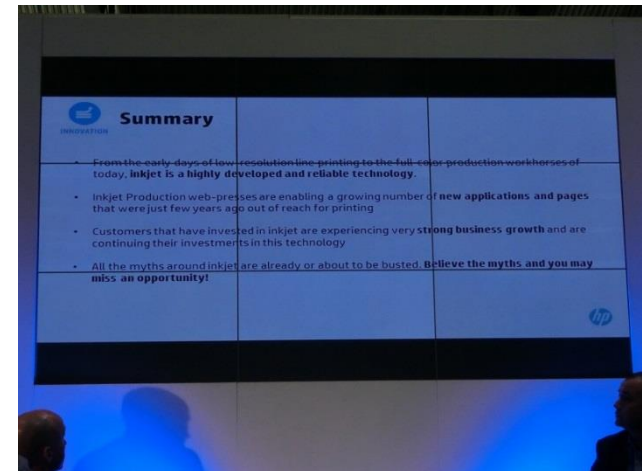
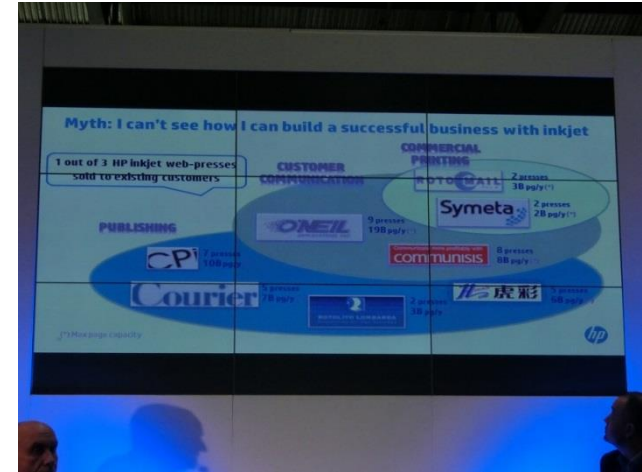
誤解7 インクジェットでのビジネスモデルが見えない

→ 既に多くの企業が複数台の設置を行っている

出版	CPI	7台	100億ページ/年
	Courier	5台	70億ページ/年
	Rotolito	2台	30億ページ/年
	Hucaist(虎彩)	5台	60億ページ/年
DM	O'Neil	9台	190億ページ/年
	Communis	8台	80億ページ/年
商印	RotoMail	2台	30億ページ/年
	Symeta	2台	20億ページ/年

サマリー

- ・初期の低解像度製品の時代から今日の高速フルカラー印刷までインクジェットは高度化しかつ信頼性の高い技術となっている
- ・輪転タイプのインクジェットは、数年前までは実現できなかったような新しい用途での活用を可能とした。
- ・この技術に投資した顧客は、市場の成長を実感しており、この技術に継続して投資をしている。
- ・今まで信じられていた誤解は既に過去のものとなっており、それにとらわれていてはビジネスチャンスを失う。



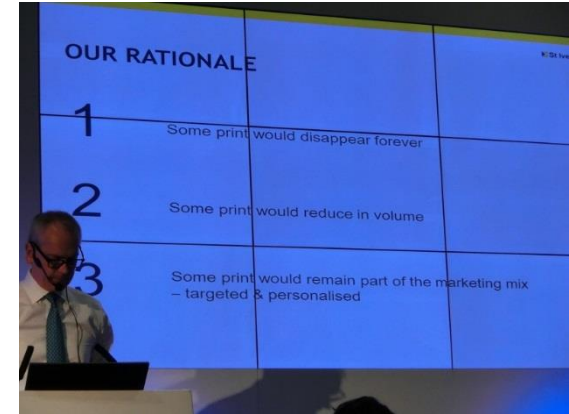
印刷職場におけるエレクトロニクス製品製造ライン技術の導入

- ・オランダの印刷会社 Paro GroupはフォトブックやPOD対応のために、元フィリップスの技術者の協力を得て製造ラインを見直しリーンマニュファクチャリングの体制を確立し、中間在庫の削減とスムーズな作業フローを確立した。
- ・コンベヤーによりデジタルプレスからの印刷物を後加工機に自動搬送。このコンベヤで作業用のバッファも確保。
- ・このシステムにより平均1.8部の印刷で、年間100万部を実現。
- ・この技術をもとにBook Factory Systemsを設立し外販を始める。
- ・印刷業界の常識にとらわれない取り組みがブレークスルーを生み出す可能性が見える



The Art of Creating New Revenue Streams and Exploiting New Market

- ・英国大手印刷会社St IvesのCEOによる講演
- ・1964年設立され商業印刷でスタート
 - 書籍印刷のClaysやDMの会社を80年代にM&A
 - それ以降のM&Aとして
 - 2004年 POPのSP Group
 - 2006年 イベント・展示会分野のService Graphics
 - 2010年 データマーケティングのOccam DM
 - 2011年 フィールドマーケティングのTactical Solutions
 - インテグレートマーケティングのResponse One
 - 小売市場のコンサルタント会社Pragma
 - 2012年 市場調査 & コンサルタントのIncite
 - モバイルマーケティングのSponge
 - 2013年 マーケティング & テクノロジーコンサルタント Amaze
 - サーチ & デジタル・エージェンシー Branded3
 - 2014年 デジタル・エージェンシー Realise
- ・印刷業界に対する見方
 - 1) ある分野の印刷はなくなる
 - 2) ある分野の印刷は減少する
 - 3) マーケティングミックスの一部として印刷は残る
- ・革命 (revolution) ではなく、進化 (evolution)
 - 1) マーケティングサービスをM&A
 - 2) コモディティー化した印刷の整理・合理化
 - 3) セグメント化できターゲットを絞れるマーケティングに注力



The Art of Creating New Revenue Streams and Exploiting New Market (2)

- ・マーケティングサービスとして7つのグループ、印刷分野として4つのグループに整理
- ・直近6か月の業績 2013年8月—14年1月)
 - 売上 1.65億ポンド(280.5億円) 1.8%増
 - 利益 1290万ポンド(21.9億円) 13.1%増
 - マーケティングサービスは4670万ポンド(79.4億円)で50%増加
- ・今後の方向性
 - 1) マーケティングサービス分野で成長(自然増とM&A)
 - 2) 印刷分野は顧客との強固なつながりと規模の面から、今後とも提供する製品サービスの重要な要素

Marketing Services

Data Marketing

Occam

Database management
Data analysis
Data insight

Digital Marketing

amaze

Strategy & creative services
Design & build
Digital commerce & technology
Integrated communications
Global implementation & support

Consultancy Services

insite

Customer insight consultants
Market research & analysis

Field Marketing

tactical solutions

Field sales services
Trade marketing
Sales training
Interim management

Response One

Campaign management
Data intelligence
List & media planning
Media sales
Campaign delivery

BRANDED3

Design
Development
Search engine optimisation
Social media
Pay per click
Web analytics
Digital consultancy
Training
Events

PRAGMA

Retail strategy
Investor services

Print Services

Books

Clays

Monochrome books
Distribution
Logistics
Print on demand
Inventory management

Exhibitions & Events

Service Graphics

Visual consultancy
Graphics production
Giant media
Outdoor graphics
Exhibition & events
Display products
Sports & sponsorship branding

Point of Sale

SP

Retail & brand POS
Store audits
Logistics
Digital screen media

Direct Response

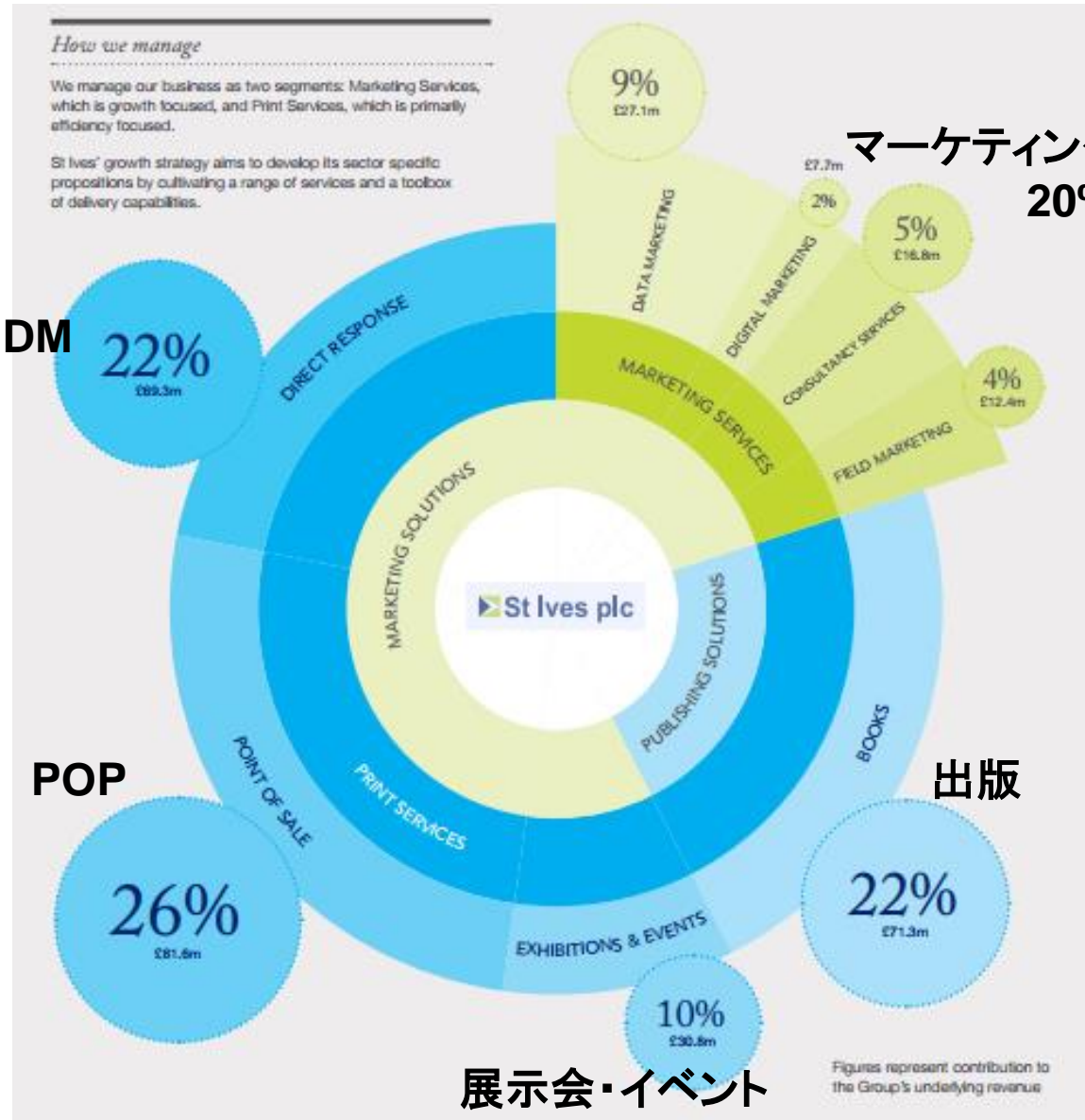
SIMS

Outsourcing
Vendor management
Print management

St Ives Direct

Direct mail
Digital print
Personalisation
Commercial print

The Art of Creating New Revenue Streams and Exploiting New Market (3)



Reinventing the business – again and again.....

- ・Halstan Printing GroupのManaging Director Chris Smith氏による講演。同社は3代続く楽譜分野に特化した印刷会社であったが時代に対応して変化してきた。
- ・最初の変化
楽譜出版社の統合が始まり、50社あったものが10社に集約される。
そのなかで出版社のInplant(内製工場)を1984年、86年に買収し、楽譜分野というニッチ市場での地位を固める
- ・新規議場分野の開拓
1993年にBPIF(英国印刷連合会)の協力を得て市場分析を行いジャーナルと教育書籍分野にフォーカスすることを決める。市場参入は簡単ではなかったが1995年には最大の顧客はジャーナル分野となる
- ・新しい血液の流入
2003年 Ideal Printer買収 印刷のキャパが増大、Halstanには製本の設備がある相互補完
2005年 Hansel Press買収
- ・クロスメディア、ウェブ、地図などの新しい技術
2011年 Pindar Creative買収
2013・2014年 音楽出版社Kahn & Averill publishes、ミュージックライブラリQdubs、ドイツの楽譜出版社のInplantの買収

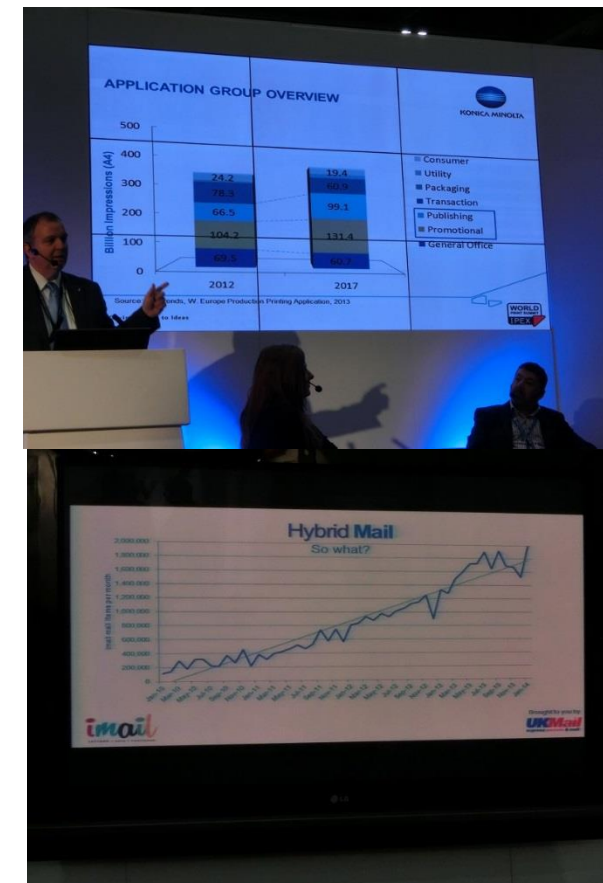
“It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives. It is the one that is most adaptable to change.”

Charles Darwin
The Origin of Species – 1859

Can Print Co-exist with Digital Communication in Future?

- ・パネルディスカッション： コニカミノルタ、NovaDirect(DMメーカーリング会社)、UK Mail (iMail division)、Ice Blue Sky(マーケティング会社)
- ・欧州におけるプロダクションプリンタの用途の変化(2012年から2017年)

減少:	オフィス用途	695億枚→609億枚(A4換算)
	トランザクション	783→609
	その他	242→194
増加:	出版	665→991
	商印	1042→1314
- ・ハイブリッドメールサービスのiMailは4年前にUK Mailが開始したサービスで、顧客がウェブサイトで申し込みを行うと、UK Mailが印刷と配送を行うものでDMや各種の通知に活用されている。現在では年間4500万ページに相当する量をこなしている。
- ・顧客の70%はメールの案内よりもDMを好んでおり、DMで案内を行った後でメールやウェブサイトにレスポンスしてもらうと返答率が高い。
- ・広告費用がデジタルの多く割り振られる傾向はここ4-5年続いているが、過去12-18か月で見るとプリントへの回帰がみられ、特にハイエンド分野では顕著。





Memo